

SCG058-P06

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 10:30-13:00

日向灘および種子島周辺で発生するスロースリップイベント Repeating slow slip events in the Hyuga-nada and off the Tanegashima Island

矢来 博司^{1*}, 小沢 慎三郎¹

Hiroshi Yurai^{1*}, Shinzaburo Ozawa¹

¹ 国土地理院

¹GSI of Japan

GPS 観測網により、長期的なスロースリップイベント (SSE) が西南日本で複数検出されている。豊後水道では 1997 年, 2003 年, 2009-2010 年に 1 年程かけて長期的 SSE が発生した。このすべり域の東側に隣接した領域では, 2005 年に半年程度継続する SSE が発生している。また日向灘においては, 2004 年頃から 2 年ほどの周期で 1 年程度継続する長期的 SSE が発生していることが明らかにされている (矢来・小沢, 2010)。

日向灘周辺の他の領域について, GEONET の観測結果を精査したところ, 種子島の GEONET 観測点にも定常状態とは異なる変化が見られることがわかった。

2008 年 2 月 ~ 2009 年 5 月の変動を定常変動として定常変動からのずれ (非定常変動) を求めたところ, 種子島に設置されている 3 点の GEONET 観測点の全てにおいて, 2007 年後半, および 2009 年後半に, 半年程度継続する東向き of 非定常変動が見られることがわかった。予備的な解析では, 種子島のやや沖合にすべりが推定された。この領域でも長期的 SSE が発生している可能性があると考えられる。なお, この種子島周辺の SSE と日向灘 SSE は発生時期が異なり, 同期していない。

豊後水道や日向灘, 種子島など, これらのスロースリップは空間的に海溝軸に並行に分布しており, 大地震だけではなく, 長期的スロースリップについても走向軸に並行なセグメンテーションが存在している可能性を示している。

今後データを精査し, 西南日本のプレート境界のスロースリップ現象について時空間的に詳細な解析を行っていく予定である。

キーワード: GPS, 日向灘, 種子島, 長期的スロースリップ

Keywords: GPS, Hyuga-nada, Tanegashima, Long term SSE